

ぶっ娘



目 次

署名のお願い	1
「性拷問事件」とは	2
韓国の女から日本の女へ	2
権さんの最終陳述	3
上溪洞ドキュメント	8
みんなの声・お知らせ	9

1987.2.14

韓国に心をよせる女性の会

東京都新宿区信濃町33 真生会館

1部 100円

署名のお願い

一九八六年六月上旬に、韓国の富川警察が学生出身の女性労働者権仁淑さんに對し、性拷問を加えた事件は、日本に住むわれわれ女性たちにも大きな衝撃を与えました。その後、この事件を権力の凶暴として告発した権さんの勇氣と怒りを共にし、韓国のたたかう女たちと連帯していくために、八六年八月、わたしたちは「韓国に心を寄せる女性の会」を発足しました。

小人数でも、権力の弾圧に対する抗議と怒りの声をはっきりと出していこうと、十月三十一日には「だまっちゃいな女の一〇・三一集会」を開き、富川の性拷問事件に対する抗議を行いました。フィリピンからジュリエット・シンソン氏も参加され、フィリピンでの政治犯弾圧について報告と韓国の民主化闘争への連

帯の言葉をいただきました。会場での怒りの声を街頭にも広げようと、十一月五日にはチャンゴやケンガリを手に、土曜日の午後の銀座をねり歩きました。しかし、韓国における民主化運動弾圧

の動きは昨年十月末の建国大学ろう城事件、十一月上旬のソウル労働運動連合などの労働団体や、民主・統一民衆運動連合などへの解散命令などますます厳しくなっています。今年に入って一月一四日

11・15デモ

にはついに治安警察の拷問によって学生が死亡する事件が起き、権力の暴力は無制限の状況に至っています。

先に、身分証明書偽造の罪で起訴されていた権仁淑さんは、ついに十二月初め、仁川高等裁判所から懲役一年六カ月の有罪判決を受け、現在も獄中に在ります。一方、性拷問を行った警部文貴童は起訴もされないうままです。

この間、わたしたち「韓国に心を寄せる女性の会」では、権さんと怒りを共にする人々の声を一人でも多く韓国政府に届けるため性拷問に対する抗議の署名を集めてまいりました。八六年一二月末現在で約一〇〇〇の署名を集めることができました。さらに多くの人々の抗議の声を届けられるよう二月末をめどに署名活動を続けていきたいと思ひます。是非ご協力ください。「女性の会」では性拷問事件の実態を伝えるためのパンフも作成しましたのでご利用下さい。（ご希望の方はご連絡下さい。）

性拷問事件の北見景

一九六〇年以降、輸出指向産業を主要な柱として開発政策を推し進めてきた韓国は、今では香港、台湾、シンガポールと並んで新興工業国としての面目を確立した。輸出産業の中でも、繊維、縫製、電子産業など未熟練労働集約的産業を支えてきたのが、小卒と中卒が九四%を越えるといわれる若い女子労働者である。学歴によって就職できる範囲が厳しく制約されていることが、儒教精神が根強く残っていることを表わしているが、彼女らは、家族の生活を支え、兄弟の学費を稼ぐために、極端な低賃金と長い労働時間、職業病や職場での性的嫌がらせに耐えて今日も働き続けている。

八〇年代に入って、労働者の人権と生

活を守る闘いは全政権によって封じ込められてきた。労働運動の経験者は、職場から追われ、組合結成の動きは、暴力によって潰されることが多い。生存ぎりぎりのところで立ち上がろうとする労働者は解雇と逮捕を覚悟しなければならぬ。それでも韓国社会の主人公は、労働者を中心とした民衆であることを確信し、民主化を実現するために、学生、労働者、市民、女性、宗教者が連携して闘い続け

てきた。特に学生運動出身者で労働現場に入り、苦勞をともにしながら、民主化への道のりを共に担おうとする人々の数が増えてきた。権仁淑さんも労働者と共に生きる道を選ぶために、ソウル大学を除籍された事実を隠し、学歴を詐称しなければならなかった。彼女は韓国の歴史を、民衆のひとりとして変えてゆこうとしている多くの心美しい女性のひとりである。

韓国の女から日本の女へ

まず、富川性拷問事件に関して沢山の御尽力をいただいたことに感謝します。今日は女性問題についてお話しします。日本から多くの観光客が韓国に来て、妓生観光という形で韓国女性に対する人権じゅうりんを行っています。日本でも多くの女性が飲食店や映画等を通じて強いられるものを韓国にそのまま持ち込み、韓国女性を性的に虐待し搾取していることに對し、憤りと悲しみを禁じえません。この問題を日本の女性とともに連帯し、解決したいと思ひます。この十二

月にも日本のバイヤーを接待するためにホステスが強制的に酒を飲ませられて死亡するという酷い事件が起きました。酒を飲まねば服を脱がせるというやり方で、その女性は女性の自尊心を守るため酒を飲みすぎて命を落としたのです。このような事がよく見られます。また、韓国の女性を戯弄し、金も出さずに逃げるということもよくあります。妓生観光を通じた韓国女性に対する戯弄と搾取に對し、私たちが連帯し、徹底的に闘うことを提起します。また、権さんは今も獄中で苦しい生活をしています。引き続き政府と法院へ抗議の手紙をお願いします。

権仁淑さんの最終陳述

胸がおののき、涙があふれ、と同時に私には耐えがたい、あまりにもむごく、衝撃的な出来事でした。保護室で三日、留置場で三日、矯正所で五ヶ月半、四方が閉ざされた監房の中で、手や足を伸ばすことのできない、人間が人間を拘束して、常識的にはどうい考えられない出来事の前で、私は、たくさんのかんことを考えさせられました。一日三十分間ある運動時間を洗濯物干し場に出て跳びはねながら時間を過ごし高い塀の中に閉じ込められて、私はなぜここにいるのか？ 私は何をしようとしたのか？ 誰が私をこんなふうにしたのか？ 私は正しかったのか、悪かったのか？ 私は次から次へとわくこの問いに反問してみました。私は生涯をかけて、このうえなく貴いものに向かって正当性を主張します。

ある日の夕方、三十六度を超す矯正所に、ひとりの若い娘が、担架に載せられて真っ暗な監房に放り込まれました。錠を掛けて矯正官が去ってしまった後、人々が、何かとしきりに覗き込みながらひそひそと囁いていましたが、確認してみたところ、「性拷問事件」の検察発表を読んで仁川検察庁に抗議に行ったひとりの女学生が全身に火傷を負い、化膿して膿が流れ出ているのに、矯正官たちは検事の指示がないというたまたまそれだけの理由で、何の応急措置もとらないまま外部の温度より数度も高い監房に放り出したままにしたのです。矯正官たちのこのような職務態度を見て、人間としてはどうい常識では行なうことのできない動物的行動であると思いました。私は年のいった彼らに向かって、黒り、叫びました。「この犬畜生、お前ら、それでも人間か？ 兄弟も子どももないのかお前らのようなやつらを信じてこの社会を任せろというのか」とわめきたてました。「傍聴席のあちこちで涙声」 検察からの指示がないという理由で、ひどい

火傷を負ったその女学生は、真っ黒に焼けただれて、腫れあがり、膿がだらだらと流れ落ちる状態で（涙声で）一時間以上も応急処置もすることなく放置されました。そしてその女学生に対する報復措置なのか、何らの指示もなく、放置したままでした。息もたえだえの生命を前にイデオロギーを問いたしながら、その良し悪しを明らかにすることはできません。

百余人の女性たちがいっせいに、助けてやってと叫びました。「早く救急車を呼んで病院へ運べ、応急手当をせよ、ひとりが死にそうだ」と喉も裂けよとばかりに泣き叫びました。おばさんも、おばあさんも、女子監房のすべてのひとりがひとつとなって泣き叫びました。監房内の温度はずっと三十六度を超え、息が詰まりそうな状態でしたが、真夜中に、わたしたちへの答えのかわりに、青い軍服を着た連中が監房内に入って来て、めちゃくちゃに暴力をふるいました。

「暴力政権退陣せよ、生命を救え」と喉

も裂けんばかりにわめいたけれども無駄でした。あのときほど監房内にいる自分の立場をもどかしく思ったことはありませんでした。騒ぎが起こって三、四時間後に、医務課長と部長という者が現われ、提出する。頼み込んでみよう。応急手当ができるように水と綿を持ってきてやる」といいました。そのことを通して私は、ひとつの事実を悟りました。

悪らつで不当な政権を維持することが目的であり、お金を借りることだけが彼らの目的であるとき、そんな人たちに抑圧され、奪い取られているとき、私は何を持っているのか、私たち皆は何を持っているのか、生命が危ない人があるのに、「指示がないから治療ができない」という、そんな人たちの前で、いつになっても治療してもらえればいいと、ぼんやり手をこまねいて待たねばならないのか。

どんな小さな権利でも、求めなければ

ならず、叫ばなければならず、闘い取らねばならない私たちの現実を改めて認識させられました。

お金が最高であると考えた彼らに、いつかは与えてくれるだろう、いつかは家賃を免除し、子どもの学費や病院の費用も心配しないで済むその日がやってくるだろう、そのように分け与えてくれる日を待ちながら生きねばならないのか、それが正しいことなのか？ つらつら考えてみましたが、私はそんなことはないと思います。

前回、法廷に立ったとき、本当に法に違反したものは誰なのか、なぜ私が立たなければならぬのか、文貴童とこの政権の責任者がこの席に立たなければならぬと申しました。「労働運動をしようとしたことが、どうして不純なこと、職業選択の自由があるのに、あんなつまらない大学に通った経歴があるからといって、工場に入ったことがいけないのですか、それを悪いという人たちの方が間違っているのか」と叫びました。この

席で、私が公文書偽造をしたことが果たして正しかったのか、悪かったことなのか、敢えて述べたくはありません。しかし、私が偽造した住民証の持ち主には何らの被害が及ばないだろうと信じますし、その人が労働者であるかどうかは知りませんが、その人のために私のしたことが間違っていたとは思っていません。しかし、その人に被害が及んだのであればお詫び申し上げます。

しかし、私は自分に何を望んだのでしょうか。たくさんさんの問題をかかえているこの社会の中で人間らしく生きてゆける唯一の道は、労働者として生きることだと考えました。圧迫を受ける多くの働く人たちの現実に対して胸をいたため、彼らのために私が一緒になって生きていくことが、何が間違っているのでしょうか？ 他に道はないのか？ 家族を苦しめながら生きなければならぬこの道以外に方法はないのか？ 人間らしく生きる唯一の道は、この道以外にないと思います。

偉大なる真実の前に叫び、要求し、闘

い取らなければ何ひとつ与えられないこの社会で、それを求めようとする者たちは、あまりにも堂々としており、その堂々さをめざして、自分自身を捧げること、これが真の愛ではないでしょうか？　これは、私だけの考えではなく、群衆と群衆をつなぐ考えであり、結局私たちの行動は、偽装就業者という烙印を押されるというこの社会の私生児になりました。意地汚く自分たちの政權を維持するため、に私たちを追い払ったとしても、誰もが、それらの手段がいかに間違っていると思ふろうとも、私たちは、人間らしく生きようと、人間を愛しながら、すべての人が一日も早く平等により暮らしをしなければならぬという真実の前で、その正当性の前で、白旗をあげることはできません。その間、私はこれといって変わったこともなく、磨きもかかっていない自分の人格と姿勢、さらには、いきなり押し寄せてきたこの事件に向き合うことがとてもつらかったのです。世間では、いわゆる性拷問事件、富川署事件として知られ

ていますが、ほんとうにひどいことです。そのときのことを考えながら、私はあがき、苦しみ、見えもしない監房の空を仰ぎ見て泣き叫び、振り返ってみました。誰も見るこののできなかった真夜中、灯の消えた狭い取り調べ室で起きたこの事実を明るみに出さなければ、誰も苦しまず、誰も心を痛めずに済んだでしょう。しかし、世に知らせなければならぬと震える手で、告訴状を書きながら、ずたずたに身を裂かれる思いでした。辱めを受けた性拷問を書き綴りつつ、人間が人間を虐待する、あつてはならないことを少しずつ少しずつ書いてゆくとき、私は身悶えしました。しかしいま私は告発するに至ったことについて、それでよかったと思います。私が世に知らせ、これから生きて行くのに何らかの支障がもたらされようとも、胸のうちに秘めて、男を嫌悪し、ただただ被害意識にとらわれ、非理性的な感情におぼれ、世をうらみ悲観して生きるより、世に知らせる道の方がずっと心やすまり、正しい方法だと思

いました。そして、私が世に明らかにしようと思うもう一つの理由は、日帝時代から、自分だけが、自分の家族だけが唯一のものだと安易に考え、民族の痛みと人間の苦しみには目もくれず、弾圧と侮辱やでっちあげとさまざまな拷問の前にへつらい、汚しながらそれを真理だと考え、とてつもない物理的な力の前に屈服して加害者となつている彼らを目覚めさせねばならないと考えたからです。このように決断するには、たくさんの人々が私に勇気を与えてくれました。今もどこかで、正しい世の中をつくるために骨を削るような苦しみで打ち勝って生きてゆく同志たちの生き方が、私にとってははなによりも大きな励みでした。彼らがいなかったら、私はがんばりとおすことができなかったでしょう。また、この事件に抗議し、自分を投げうって闘った多くの人々、そして、私に慰めの手紙を送ってくださった方々も私には大きな慰めになりました。結局、いくら踏みこじられても、私たちは生きており、く

じけません。自分の家族でもないのに、親戚でもないのに、一緒に怒ることができるといふこと、お互いを愛しており、お互いに関心を寄せ、不義をみて見逃さず、健全な美しい国を建設するために清い心をもって私たちは生きているということに、私は喜びを覚えしました。

仁川地検の検事たち、あの検事たちはすごい威力を持った人たちです。私は法律はよく知りません。しかし、矯正所でおばさんやおばあさん、若い娘たちを見ると、とき、判事や検事たちが、これらの人々の人生を思いのままだにしているということに改めて知りました。判事や検事たちは、これらの人々を笑わせもすれば、泣かせもし、彼らの家族の運命を左右する人々です。しかし、後ろ盾をもつ、力あるものたちは殺人を犯しても罪人にならないといふことを、人々はみな知っています。それは、いわゆる運動圏にいる学生たちの注入された論理ではなく、彼ら自らが経験した生きた論理です。一人の人間が一人の人間であり得ない彼らの

運命は、毎日のように監房で祈ることです。神様に祈るのではなく、判事・検事たちに祈る彼らの姿を見ると、人間の運命を左右する判事・検事たちのあのけがらわしい威力を見ながら、法服を着てあの高い席に座っているあの人たちを見ながら、低い席に座ってみすばらしい囚人服を着ている私の立場の方がずっと軽く、堂々と落ち着いていると思います。このことは、改めてその理由を言わなくても、すべてお分かりのことと信じます。人間の運命を左右し、法秩序を維持するために最も必要なことは公正であることです。ところで、私たちはどうか。前回の法廷ですべてを陳述したとき、涙を流したことを作りごとであるかのように検事は論告で述べる、その恥知らずな連中を見ると、人間の皮をかぶった狼どもとかわりがないと思います。私がこの席にたっていることは、私にはとても気が安まります。この地は、囚人服を着た者たちだけが罪を負っているのではないと逆説的に言いたいのです。

百万ウォンのお金が返せないために、一年といわず何年でも監獄にいななければならず、全国民を憤りに震えさせ、一人の女とその家族をさんざんに踏みつけた（涙声で）そいつ（注・文貴童）は、世論の裁きを受けたから許してやれというあり得ない論理をふりかざす司法部には、あきれて二の句がつけません。先ほど、ある矯正官が、「最終陳述の準備はうまくできたかね」と聞くので、冗談に「私が悪かったといえますよ」と答えました。

理知をわきまえ、前後を推し量ることのできる者であるならば、この席で許しを乞うわけにはゆきません。結局は囚人は判事・検事を信頼します。その信頼感の中で自分自身でよかったといえる堂々たる姿勢は、無残に切り裂かれてしまい、基本的な信頼感すら粉々になつてしまいました。

一人の女の運命を一〇ヶ月も、一年もそれ以上も思いのままに左右する彼らの強権力の前で私は耐え難い侮辱と憤りを

覚えます。

弁護士さんたちに身に余る弁論をして頂き恥ずかしく、深く感謝しております。時には憤り、時には古いことが思い出され、時にはあまりの憤りに涙がとめどなく流れます。

日帝時代から、ひどい拷問によって、日々さんざんな目にあってきたわれわれの立派な先祖、先輩たちに少しでも、それがたとえ小さな慰めにしかならなくとも、私の真実の暴露をささげたいと思います。そして、真実を知るために、真理を真理であると明らかにしたことでも多くの人に少しでも足しになればそれで満足したいと思います。

そして、私が経験した多くの苦痛をもにわがちあつてくださり、泥沼の中を踏みしめて起き上がり新たな勇気と覚悟を抱かせてくれた監房内の同志たち、弁護士さんたち、そして周囲で、全身で抗議し抵抗しつづ叫んでくれ、かばってくれた民主人士たちがあつたために私もまた、叫びをあげることができたのです。

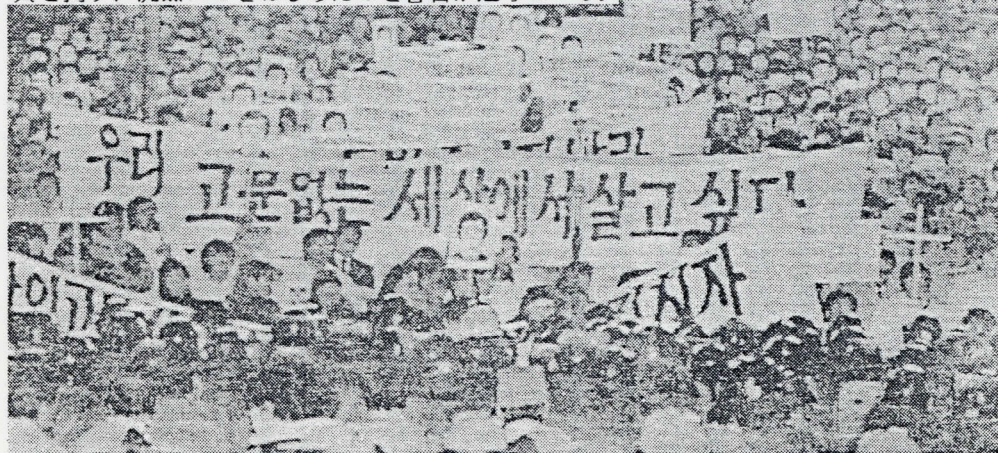
その方々に感謝いたします。そして、むしろ矯導所の中で保護されていた私より、社会の荒浪の中で日々痛めつけられていた家族たち、検事の取り調べを受けに行ったとき、検察庁に駆けつけて来て、牛乳一口でもなんとか飲ませようとした（涙声で）母の姿を忘れることができません。私より何百倍もの苦痛を受けている家族に申し訳なく、感謝しています。私のため骨折ってくださった多くの人たち、労働運動家、民主化運動に参与している、そして絶えることなく動いている青年労働者たちに感謝します。

このようにしっかりと立って、叫ぶことのできる私をつくってください。みなさんに報いるために、どんな苦難が来ようとも、それに打ち勝って堂々と生きてゆきます。だからからも後ろ指さされることのない、私自身にも恥じるところのない人間として、生きてゆきます。

手足は縛られていても、私の行くみちを妨げることはできません。ひとりの清らかな心と清らかな精神は、真実の前に

必ず勝利するでしょう。

1月26日、明洞聖堂でのミサが終わった後、修道女・神父および信者らが約3000名が十字架と朴鍾哲君の写真掲げ、沈黙デモをはじめたのを警官が遮っている。



上溪洞はソウル市のはずれの主に貧しい人たちの住む地域である。最近、地下鉄がここまで延び、開発の熱が一層高まっている。ここには一五〇〇人の家主と彼らから部屋を借りている多くの人々が住んでいた。しかしアパート建設のプロジェクトが着工されることになり、住民は移転をせまられる事態となった。家主たちにはアパート完成まで近くに移転できよう五六二〇ドルが貸し付けられたが、間借りしていた家族たちは何の保証もなく放り出されることとなり、一二八世帯の人々が他にいくべき所もなくそこに留まっていた。

一九八六年六月二六日朝七時、一五〇〇人の暴力団、家主、四台のクレイン車そして三〇〇人の警官が押しかけ、手当たり次第家を壊しはじめた。日銭をかせいでくらしをたてている住民のほとんどが仕事にでた後で、この突然の惨事が起こったときは、女性や子供など六〇〇七〇人しか残っていなかった。暴力団らは彼らを家から引きづり出し、家具を外に

上溪洞 ドキュメント

放り投げ、クレインで屋根を壊した。方方から「徹底的にやっちゃまえ」と拡声器でわめく声がかきこえた。空き家に住んでいたある男性は、壁の下敷きになった。妊娠中の主婦が暴力団に殴られて気を失ったほか、四人の住民が負傷し、病院へ運ばれた。住民三人が逮捕された。この事件は新聞やラジオ、テレビにはまったく報道されなかった。

一〇月に入り気温も下がって、家を壊され野宿していた人々はテントを張りそこで寝るようになった。彼らは政府が近くの土地を安く譲渡するか将来建つアパートの一部を彼らが使えよう希望している。だが政府は耳を貸そうとはしない。ついに、一二月二四日午後三時半、酒に酔った暴力団一五〇人は再びここに侵入し、テントを全部引き剥がし、焼き捨

うちこわしにあった上溪洞の一角



ててしまった。その夜、テントのなくなった場所でクリスマスのミサが行われた。金寿煥枢機卿をはじめ多くの外来者をまじえて、静かなお祈りが続けられた。厳寒の中、再開発計画の名の下にのざらにされてしまった彼らに今後どう生活していけるのか。貧しい者から奪う再開発とは一体何なのか。

みんなの声

あけましておめでとうございます。
あるパンフで貴会の事を知り、とり急いでペンを取りました。

私は、某会社に勤めるOL(日本人)です。私の会社は、韓国にも工場を作り労働者を安く雇用しているので、日常的に韓国への思いはつのつていきます。光州での闘いの時は、韓国の会社の労働者も大変頑張った様で、日本から派遣されていた会社社員達はヘリコプターで逃げまどったと聞いています。

私が高校時代に大村収容所との出会いがあり、それ以降、韓国そして在日朝鮮韓国人の問題にこだわり続けています。

……中略……

ところで、「勇気ある怒りを共に」というパンフレットを送って下さい。そしてもし良ければ、「韓国に心をよせる女性の会」の活動内容を教えていただけますでしょうか。ささやかですが、私にできる事があれば、お手伝いさせて下さい。

(八七・一・六 S・K)

性拷問に抗議する署名を社内で集めたので送ります。私どもの組合でも、ずっと女性差別——性的いやがらせ——を糾弾する取り組みを進めてきました。このため今回この署名用紙を回す時、組合員の関心は高いのではないかと“期待”していました。ところが意に反して(?)まるでこうした問題は声のトーンを落として(多分どう対応してよいかわからないうのでしようが)署名をする人が多かった気がします。……中略……

権さんの闘いは非常に心を寄せるものがあります。今後ともお手伝いできる事などありましたらご連絡下さい。

(K・A)

いつもご苦勞様です。

生活のためとは言え、自分のことだけに逐われている毎日で、心で韓国のこと思っているにすぎない自分にあきれますが署名と少しのカンパ同封しました。よろしく。

(Y・M)

一〇・三一集会の時の署名、遅くなつてしまい申し訳ありませんがお送り致します。

ます。

最近、大学で“アジアの現実を考える学生の会”を発足させました。既存の人権グループとアジアに関心のある学生とで作ったサークルで、現在はフィリピン韓国、女性、人権等の問題を中心に考えています。

“韓国に心をよせる女性の会”も大いに私たちの関心のあるところですので、一〇・三一以降、あるいは今後の活動など、機会がありましたらご連絡いただくと幸いです。

運動の輪がひろがることを祈って……

(K・S)

お知らせ

★「勇気ある怒りを共に——韓国の性拷問に抗議する——」パンフレット好評発売中 頒価二〇〇円。

★「韓国に心をよせる女性の会」にカンパを！ 振替 東京二一一三九六二一

★署名は二月下旬まで。

新宿区信濃町三三 真生会館気付

△編集後記▽「ぶりっ娘」をお届けします。沢山の声が寄せられることを!!